

別記第1号の2様式

| | | |
|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------|
| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間 | 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間 | 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 |
| (1) 介護保険制度 | (1) 同左 3 | (1) 講義、通信講習及び演習 身近な介護保険サービスについて調べ学習をする |
| (2) 障害者福祉制度及びその他制度 | (2) 障害者総合支援制度及びその他制度 3 | (2) 通信講習のみ |
| (3) 医療との連携とリハビリテーション | (3) 同左 3 | (3) 講義、通信講習及び演習 リハビリテーションの器具等を用いてトレーニングを体験する |
| 5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間 | 5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間 | 5 介護におけるコミュニケーション技術 |
| (1) 介護におけるコミュニケーション | (1) 同左 3 | (1) 講義、通信講習及び演習 トレーニングワークに基づきコミュニケーションを体験する |
| (2) 介護におけるチームのコミュニケーション | (2) 同左 3 | (2) 講義、通信講習及び演習 事例の記録に基づいて、気づきを発表する |
| 6 老化の理解 6時間 | 6 老化の理解 6時間 | 6 老化の理解 |
| (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | (1) 同左 3 | (1) 講義、通信講習及び演習 高齢者の日常についてロールプレイを通じ気づきを発表する |
| (2) 高齢者と健康 | (2) 同左 3 | (2) 講義、通信講習及び演習 イラストを用いて体調変化を読み取る演習を行う |
| 7 認知症の理解 6時間 | 7 認知症の理解 6時間 | 7 認知症の理解 |
| (1) 認知症を取り巻く状況 | (1) 同左 2 | (1) 通信講習のみ |
| (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | (2) 同左 1 | (2) 通信講習のみ |
| (3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | (3) 同左 1 | 講義及び演習 (3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について事例を読み、気づきを発表する |
| (4) 家族への支援 | (4) 同左 2 | 講義及び演習 (4) 家族への支援についてロールプレイを通じて、気づきを発表する |

別記第1号の2様式

| | |
|------------------------------------------|---------|
| 8 障害の理解 | 3時間 |
| (1) 障害の基礎的理解 | |
| (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | |
| (3) 家族の心理、かかわり支援の理解 | |
| 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 | 75時間 |
| ア 基本知識の学習 | 10~13時間 |
| (1) 介護の基本的な考え方 | |
| (2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | |
| (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | |
| イ 生活支援技術の講義・演習 | 50~55時間 |
| (4) 生活と家事 | |
| (5) 快適な居住環境整備と介護 | |
| (6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | |
| (7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | |
| (8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | |
| (9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | |

| | |
|----------------------|------|
| 8 障害の理解 | 3時間 |
| (1) 同左 | 1 |
| (2) 同左 | 1 |
| (3) 同左 | 1 |
| 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 | 75時間 |
| ア 基本知識の学習 | 10時間 |
| (1) 同左 | 4 |
| (2) 同左 | 3 |
| (3) 同左 | 3 |
| イ 生活支援技術の講義・演習 | 53時間 |
| (4) 同左 | 3 |
| (5) 同左 | 4 |
| (6) 同左 | 6.5 |
| (7) 同左 | 7 |
| (8) 同左 | 6.5 |
| (9) 同左 | 6.5 |

| |
|------------------------------------------------|
| 8 障害の理解 |
| (1) 講義、通信講習及び演習 ICFを通して障害を理解し、気づきを発表する |
| (2) 講義、通信講習及び演習 視覚障害者への援助を通じて、気づきを発表する |
| (3) 講義、通信講習及び演習 家族への支援についてロールプレイを通じ気づきを発表する |
| 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 |
| ア 基本知識の学習 |
| (1) 講義、通信講習及び演習 高齢者の生きがいから、QOLについて考えを発表する |
| (2) 通信講習のみ |
| (3) 通信講習のみ |
| イ 生活支援技術の講義・演習 |
| (4) 講義、通信講習及び演習 自身の生活の振り返りから高齢者の生活について考える |
| (5) 講義、通信講習及び演習 居住環境ワークを通じ、気づきを発表する |
| (6) 講義及び演習 着衣着脱に関する実技演習を行う |
| (7) 講義及び演習 移動・移乗に関する実技演習を行う |
| (8) 講義及び演習 食事介助に関する実技演習を行う |
| (9) 講義及び演習 入浴・清潔保持に関する実技演習を行う |

別記第1号の2様式

| | | | |
|----------------------------------|-----------------|-----|------------------------------------------|
| (10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | (10) 同左 | 6.5 | (10) 講義及び演習 排泄介助に関する実技演習を行う |
| (11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | (11) 同左 | 6.5 | (11) 講義及び演習 睡眠に関する実技演習を行う |
| (12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | (12) 同左 | 6.5 | 講義及び演習 (12) 終末期介護について考えをまとめて、気づきを発表する |
| (実習)* (50~55時間中12時間以内) | (実習)* | 時間 | (実習)* |
| 介護実習 ○時間 | | | |
| ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間 | | | |
| 在宅サービス提供現場見学 ○時間 | | | |
| ウ 生活支援技術演習 10~12時間 | ウ 生活支援技術演習 12時間 | | ウ 生活支援技術演習 |
| (13) 介護過程の基礎的理解 | (13) 同左 | 5 | (13) 講義及び演習 事例に基づいて支援計画を作成し、発表する |
| (14) 総合生活支援技術演習 | (14) 同左 | 7 | 講義及び演習 (14) 事例に基づき支援ポイントに沿った介護技術を演習する |
| 10 振り返り 4時間 | 10 振り返り 4時間 | | 10 振り返り |
| (1) 振り返り | (1) 同左 | 2 | 講義及び演習 (1) 研修を通じた学びを再確認しながら、気づきを発表する |
| (2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | (2) 同左 | 2 | (2) 講義及び演習 各自テーマを決めて深掘し、各自発表する |
| 追加カリキュラム | | | |
| 計 (130時間) | 計 130時間) | | |

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。